

# 滋賀県の地価動向と不動産取引の 動向に関するアンケート調査結果

～ 滋賀県不動産市況DI調査～

平成 22 年 3 月

滋賀県県民文化生活部県民生活課  
社団法人滋賀県不動産鑑定士協会

# 目 次

[ 1 ] 滋賀県不動産市況DI調査の概要 .....	2
1 . アンケート調査の概要 .....	2
2 . アンケート調査票 .....	3
3 . DIについて .....	5
[ 2 ] アンケート集計結果 .....	6
1 . 滋賀県全域の集計 .....	6
2 . 地価動向の集計 .....	7
(1) 全県集計 .....	7
(2) エリア毎の集計 .....	8
3 . 不動産市場(取引・取扱件数)動向の集計 .....	11
(1) 全県集計(DIの推移を表すグラフはP6に掲載) .....	11
(2) エリア毎の集計 .....	15
戸建販売の動向 .....	15
マンション販売の動向 .....	16
仲介件数の動向 .....	17
建築件数の動向 .....	18

# [1]滋賀県不動産市況DI調査の概要

## 1. アンケート調査の概要

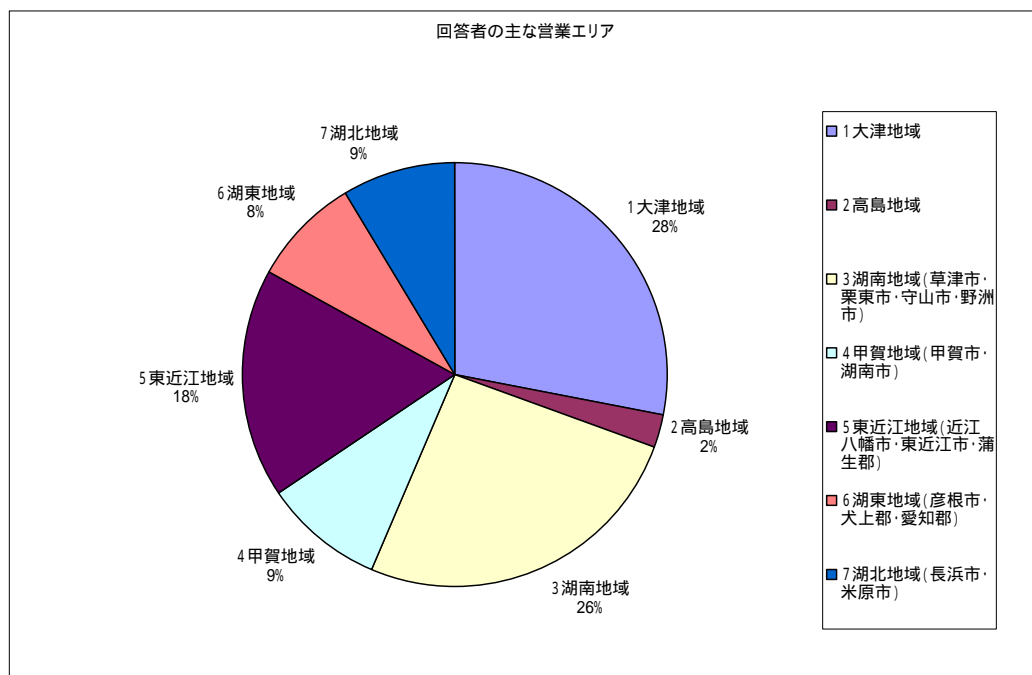
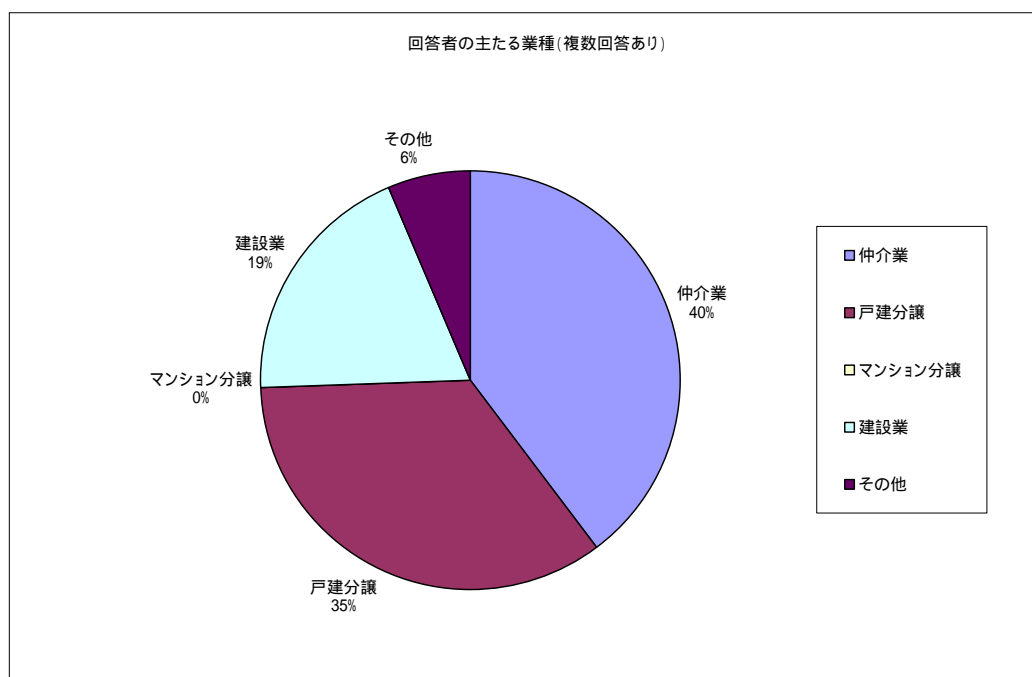
平成22年1月1日を起点とし、過去半年（H21.7.1～H22.1.1）の不動産市場の推移に関する実感と、この先半年（H22.1.1～H22.7.1）の不動産市場の動向に関する予測について、県内の不動産関連事業者にアンケート調査（次頁参照）を実施し、滋賀県不動産市況DIとして集計を行った。

実施時期：平成22年1月

発送数：427

有効回収数：206（回収率 48.2%）

回答者の属性(回答者の主な事業及び主な営業エリアは以下のとおり)



## 2. アンケート調査票

### 滋賀県における 土地価格と不動産取引の動向に関するアンケート調査票

問1. 滋賀県内における貴社（支店・営業所等の場合は当該支店・営業所（以下同じ））の主な営業地域をお聞かせください。

（最も取り扱い件数の多い地域を一つ選んで をつけてください）

1. 大津地域（大津市）
2. 高島地域（高島市）
3. 湖南地域（草津市・栗東市・守山市・野洲市）
4. 甲賀地域（甲賀市・湖南市）
5. 東近江地域（近江八幡市・東近江市・蒲生郡）
6. 湖東地域（彦根市・犬上郡・愛知郡）
7. 湖北地域（長浜市・米原市）

問2. 滋賀県内における貴社の年間営業規模（年間取扱件数）についてお聞かせください。

（該当する業態すべてについて をつけてください）

宅地のみの方譲は3. 戸建分譲にご回答ください

- |              |       |          |          |          |
|--------------|-------|----------|----------|----------|
| 1. 仲介業（売買）   | ・ 0 件 | ・ 10 件未満 | ・ 50 件未満 | ・ 50 件以上 |
| 2. 仲介業（賃貸）   | ・ 0 件 | ・ 10 件未満 | ・ 50 件未満 | ・ 50 件以上 |
| 3. 戸建分譲      | ・ 0 件 | ・ 10 件未満 | ・ 50 件未満 | ・ 50 件以上 |
| 4. マンション分譲   | ・ 0 棟 | ・ 3 棟未満  | ・ 3 棟以上  |          |
| 5. 建設業（施工件数） | ・ 0 件 | ・ 5 件未満  | ・ 10 件未満 | ・ 10 件以上 |
| 6. その他（内容    | _____ |          | 件数 _____ | 件）       |

以下は、問1で回答いただいた「主な営業地域」の状況についてお聞きします。

問3. 平成22年1月1日現在の地価の動向は、半年前（平成21年7月1日）と比較してどのように感じておられますか？（該当するもの一つに をつけてください）

1. 上昇傾向にある      2. 横ばいである      3. 下落傾向にある      4. わからない

問4. 半年後（平成22年7月1日）の地価の動向は、現在（平成22年1月1日）と比較してどうなると予想されますか？（該当するもの一つに をつけてください）

1. 上昇している      2. 横ばいである      3. 下落している      4. わからない

（裏面もご回答願います）

問5．平成22年1月1日現在の貴社の取扱件数は、半年前（平成21年7月1日）と比較してどうですか？（該当するものについて、わかる範囲でお答えください）

宅地のみ分譲はイ．戸建販売にご回答ください

イ．戸建販売	ロ．マンション販売	ハ．仲介件数	ニ．建築件数
1．増加傾向にある	1．増加傾向にある	1．増加傾向にある	1．増加傾向にある
2．横ばいである	2．横ばいである	2．横ばいである	2．横ばいである
3．減少傾向にある	3．減少傾向にある	3．減少傾向にある	3．減少傾向にある

問6．半年後（平成22年7月1日）の貴社の取扱件数は、現在（平成22年1月1日）と比較してどうなると予想されますか？（該当するものについて、わかる範囲でお答えください）

宅地のみ分譲はイ．戸建販売にご回答ください

イ．戸建販売	ロ．マンション販売	ハ．仲介件数	ニ．建築件数
1．増加傾向にある	1．増加傾向にある	1．増加傾向にある	1．増加傾向にある
2．横ばいである	2．横ばいである	2．横ばいである	2．横ばいである
3．減少傾向にある	3．減少傾向にある	3．減少傾向にある	3．減少傾向にある

問7．土地価格・不動産取引の現状や今後の動向予想など、ご自由に意見をお書きください

以上で質問は終わりです。お忙しいところ、ご協力ありがとうございました。

同封の返信用封筒にて、**2月1日（月）まで**にご返送いただきますようお願いいたします。

よろしければ以下にご記入者についてお答え下さい。お答え頂いた内容は個人情報保護法に基づき外部に漏れることがないのは勿論のこと、本件調査以外の用途で利用することはありません。また、下に本件調査の結果概要のメール配信の希望の有無をお聞きしておりますので、該当する方を  で囲んでいただいた上、**有の場合はメールアドレスをご記入ください。**

貴社名 (営業所名)	ご担当者	所属・役職	お名前
ご住所(〒 - )	TEL( - - ) FAX( - - )		主な事業 (レ印) 仲介業 戸建分譲・宅地分譲 マンション分譲 建設業 その他
ご連絡先	結果概要の配信の希望 有 無		
(メールアドレス )			

### 3. DIについて

#### (1) DIとは

DIとは、Diffusion Index (ディフュージョン・インデックス) の略で、現況や先行きの見通し等についての定性的な判断を指標として集計加工した指数であり、経済指標等において広く活用されている。

#### (2) DIの算出方法

DIの算出方法は、各判断項目について3個の選択肢を用意し、選択肢毎の回答数を単純集計し、全回答数に対する選択肢の回答数の構成比率を求め、次式により算出する。

$$DI = (\text{第1 選択肢の回答数の構成比率}) - (\text{第3 選択肢の回答数の構成比率})$$

#### (DI算出の例)

ある地域の特定の不動産業態の市況についての判断を問う質問では、選択肢が(1) 上がる、(2) 横ばい、(3) 下がる の3つあり、回答が以下のような場合の市況判断DIの算出方法は、次のとおり。

	回答数	回答数の構成比率
(1)	35 社	35%
(2)	25 社	25%
(3)	40 社	40%
<hr/>		
合計	100 社	100%

$$\text{市況判断 DI} = (35\%) - (40\%) = (-5 \text{ ポイント})$$

それぞれの選択肢の回答数の構成比率をそのまま利用することもできるが、例えば、長期の動きを時系列でみる場合には煩雑になる。そこで、これらのデータの動きを一目で把握できるように1つの指標に集約したのが「DI」である。

上記の場合、(1)上がる と答えた比率から (3)下がる と答えた比率を差し引いて求める。上がると下がるが同率であればゼロとなり、ゼロ以上であれば回答者は市況に対して前向きに考えていると言える。理論上DIの幅はプラスマイナス100の範囲となる。

DIは、市況のほか、製商品・サービス需給や在庫、価格、設備、雇用人員、資金繰りなど様々な項目で作成されている。

滋賀県では平成20年1月から地価と不動産市況に関するDIを作成している。

## [ 2 ] アンケート集計結果

### 1. 滋賀県全域の集計

【滋賀県地価の動向】 実感値は引き続き下落傾向、予測値はマイナス幅縮小を示す。

今回（平成22年1月1日時点）の地価動向判断は 61.3ポイントと、前回（平成21年7月1日）と同様、低い水準で推移しており、地価は引き続き下落傾向であるとの認識を示す結果となった。

この先半年（H22.1.1～H22.7.1）の地価に関する予測値は 51.1ポイントで、若干下落傾向が弱まるものの、引き続き低水準で推移すると予測する結果となっている。

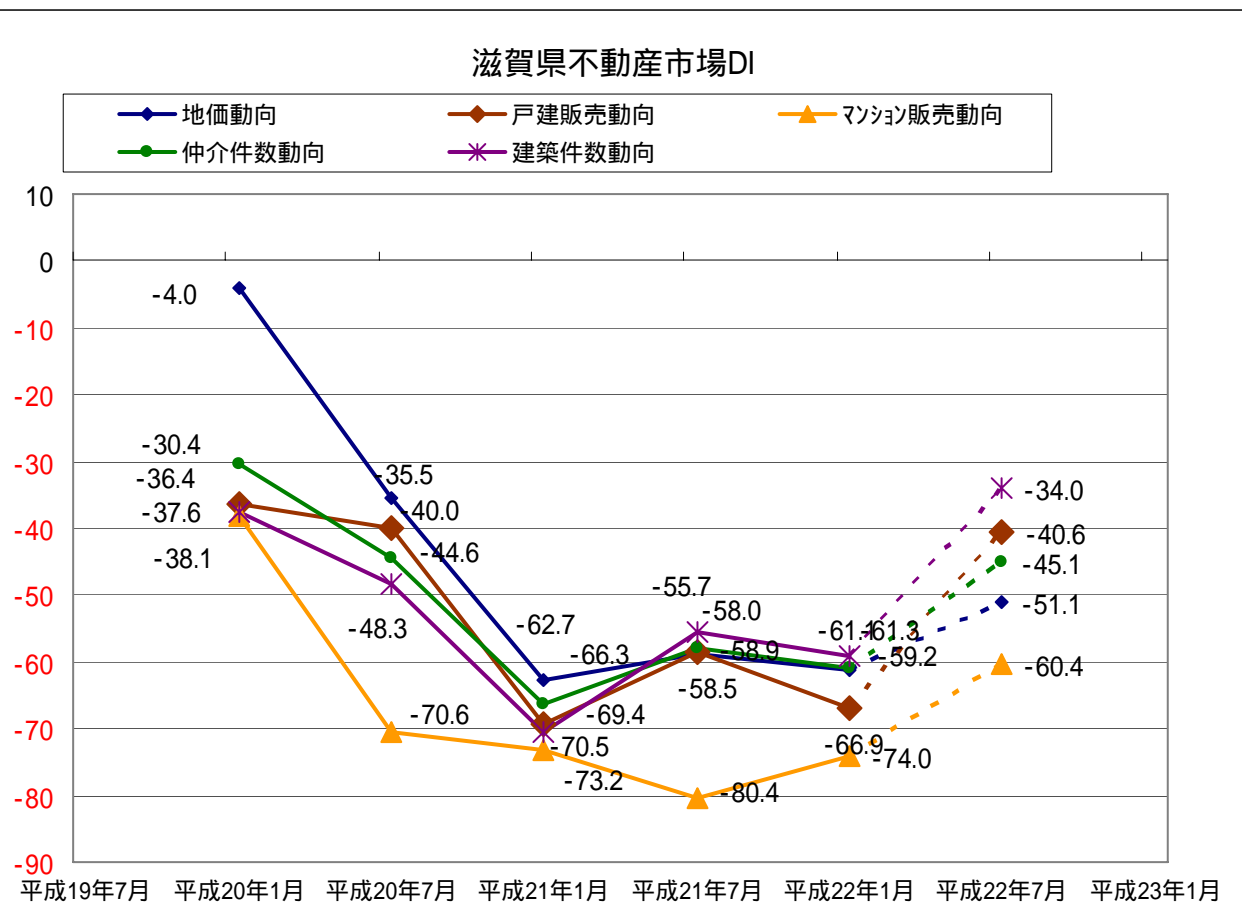
【滋賀県内不動産市場の動向】 業況では、マンション販売以外の3項目の実感値でマイナス幅拡大、予測値では全項目でマイナス幅縮小。

戸建販売動向DIは、前回より8.4ポイント悪化し、66.9ポイントとなった。予測値は40.6ポイントで弱まる予測となっている。

マンション販売動向DIは、前回より6.4ポイント改善し、74.0ポイントとなった。予測値は60.4ポイントで弱まる予測となっている。

仲介件数DIは、前回より3.1ポイント悪化し、61.1ポイントとなった。予測値は45.1ポイントで、弱まる予測となっている。

建築件数DIは、前回より3.5ポイント悪化し、59.2ポイントとなった。予測値は34.0ポイントで、弱まる予測となっている。

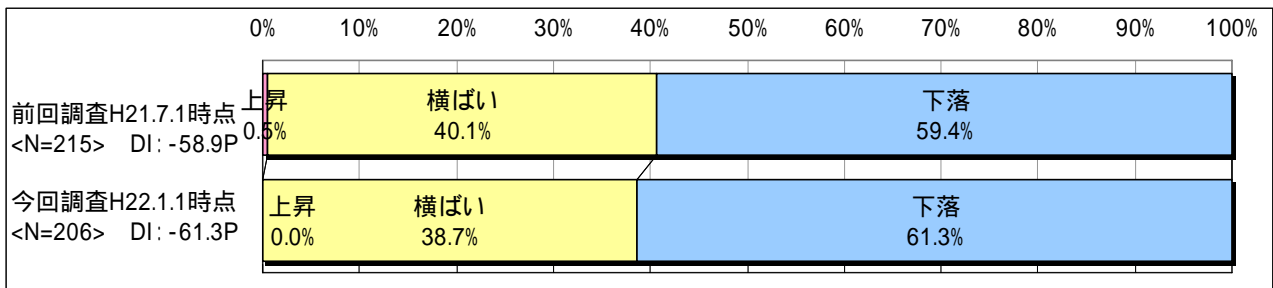


## 2. 地価動向の集計

### (1) 全県集計

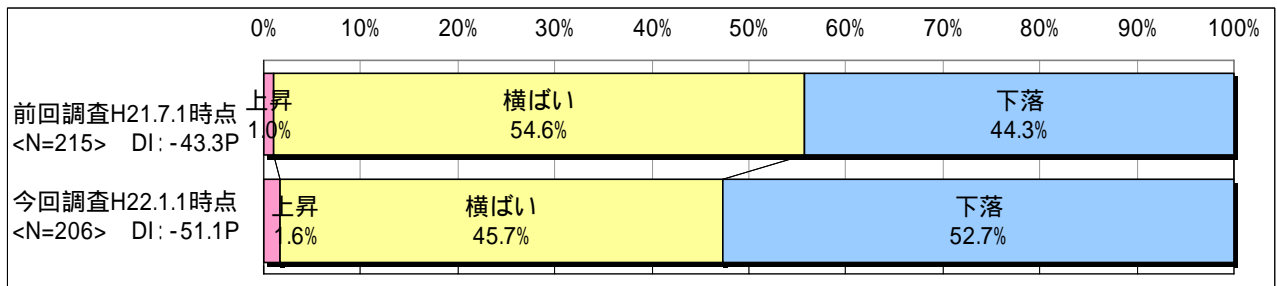
平成 22 年 1 月 1 日現在の地価の動向は、半年前（平成 21 年 7 月 1 日）と比較してどのように変動してきたと感じていますか？

地価動向(過去)		1	2	3	小計	4	計
調査時点における過去半年の地価動向(実感値)		上昇傾向にあった	横ばいであった	下落傾向にあった		わからない・無回答	
回答数(件)		0 (1)	75 (81)	119 (120)	194 (202)	12 (13)	206 (215)
DI指数	-61.3P (-58.9P)	0.0% (0.5%)	38.7% (40.1%)	61.3% (59.4%)	100.0% (100.0%)	括弧内の斜体字は前回調査	



半年後（平成 22 年 7 月 1 日）の地価動向は、現在（平成 22 年 1 月 1 日）と比較してどうなると予想しますか？

地価動向(将来)		1	2	3	小計	4	計
調査時点以降半年の地価動向(予測値)		上昇傾向にあるだろう	横ばいだろう	下落傾向にあるだろう		わからない・無回答	
回答数(件)		3 (2)	85 (106)	98 (86)	186 (194)	20 (21)	206 (215)
DI指数	-51.1P (-43.3P)	1.6% (1.0%)	45.7% (54.6%)	52.7% (44.3%)	100.0% (100.0%)	括弧内の斜体字は前回調査	

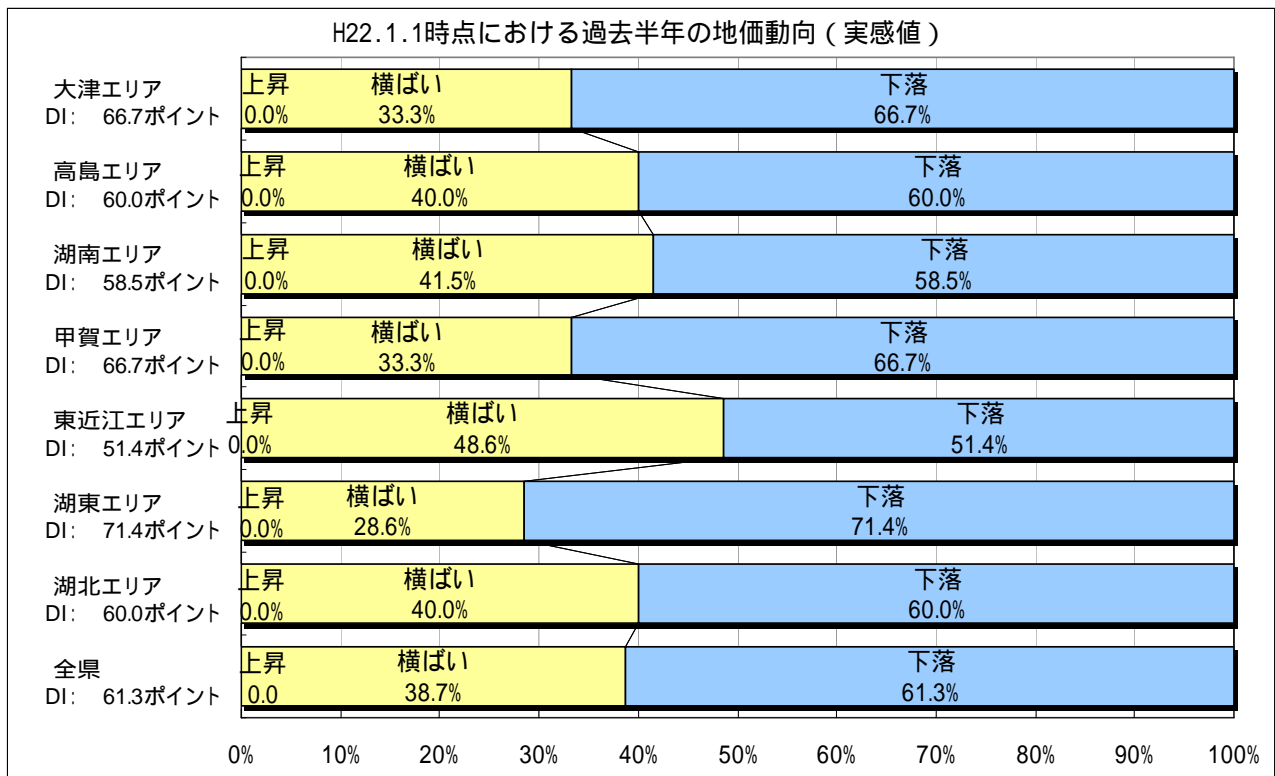




(2) エリア毎の集計

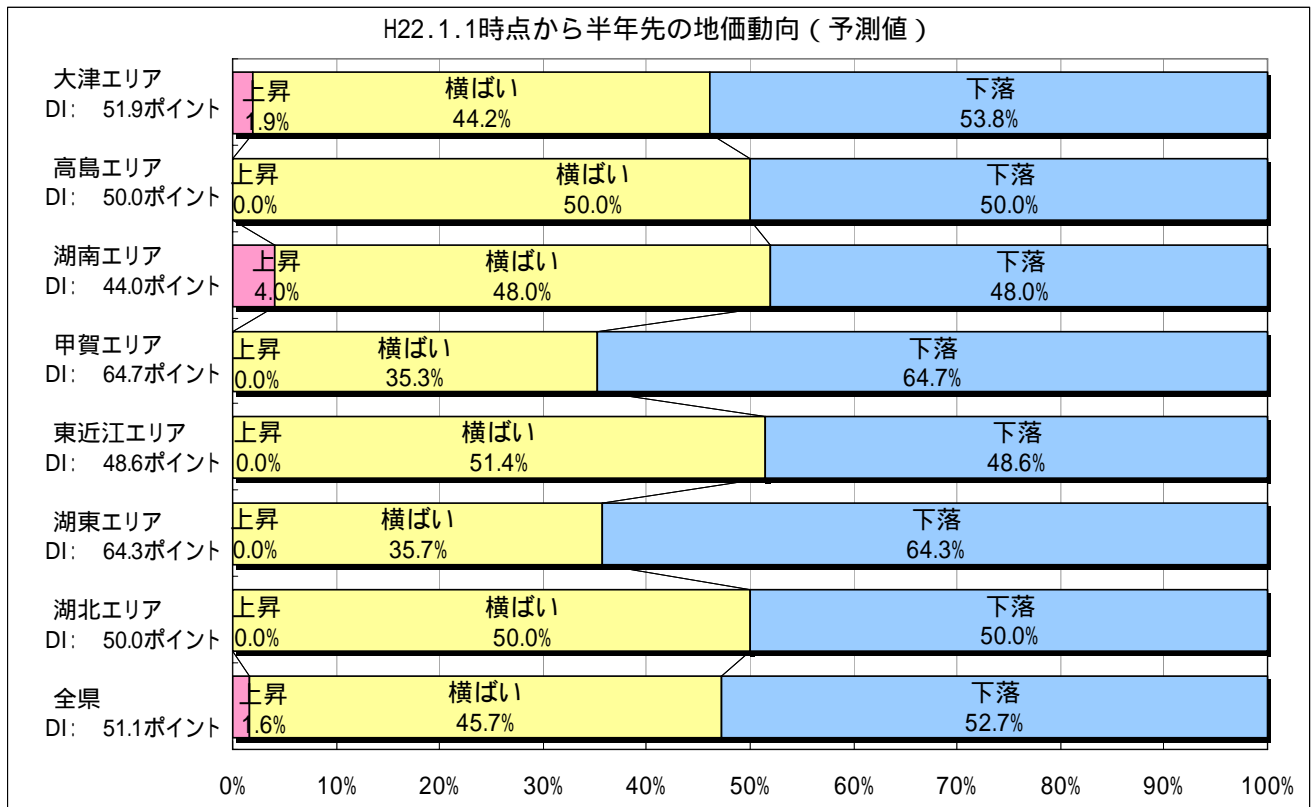
平成22年1月1日現在の地価は、半年前(平成21年7月1日)と比較してどうですか？

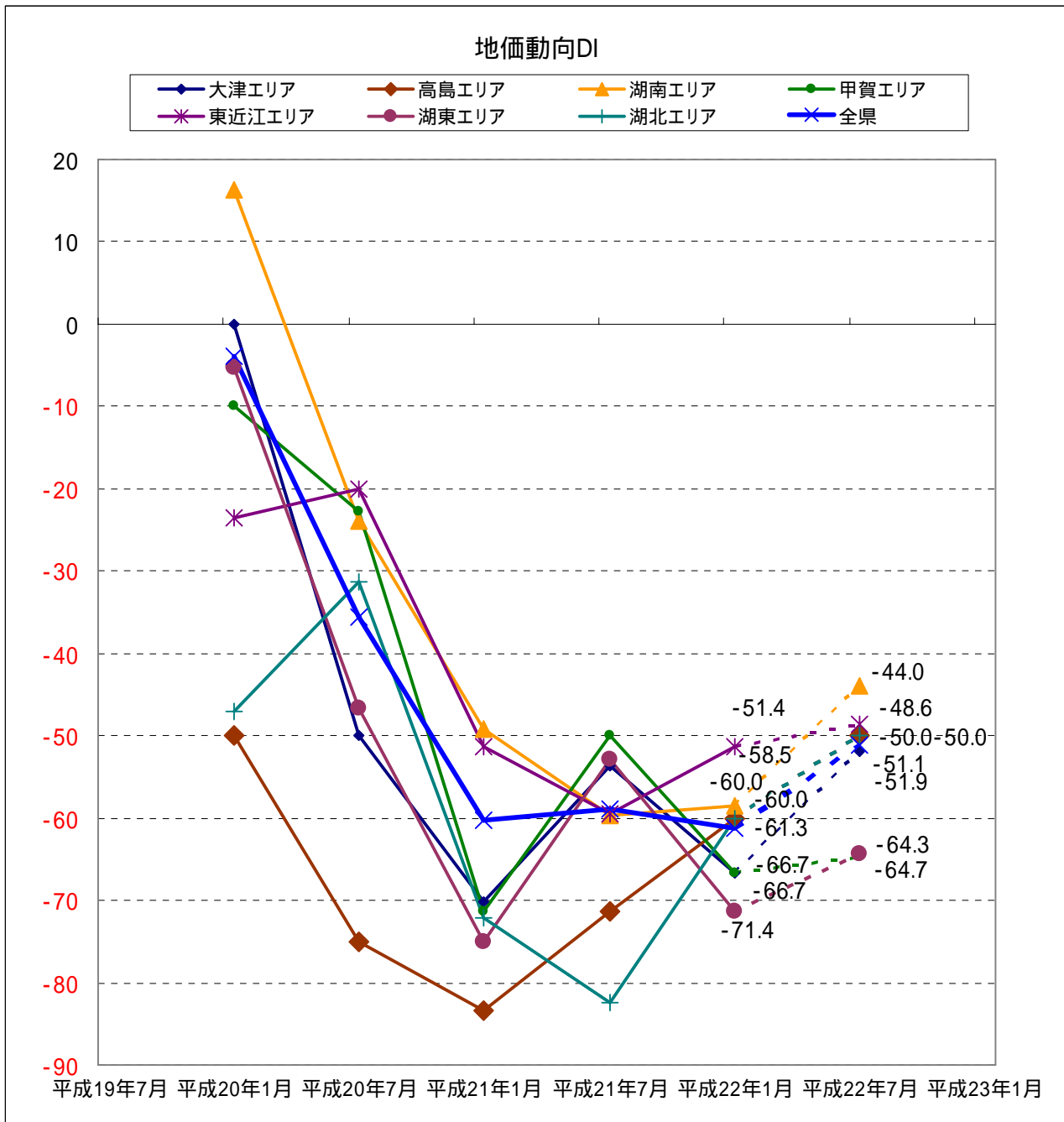
問3 エリア別地価動向(過去)		1	2	3	小計	4	計
調査時点における過去半年の地価動向(実感値)		上昇傾向にあった	横ばいであった	下落傾向にあった		わからない・無回答	
大津エリア	回答数(件)	0	18	36	54	4	58
	DI指数	-66.7P	0.0%	33.3%	66.7%	100.0%	
高島エリア	回答数(件)	0	2	3	5	0	5
	DI指数	-60.0P	0.0%	40.0%	60.0%	100.0%	
湖南エリア	回答数(件)	0	22	31	53	0	53
	DI指数	-58.5P	0.0%	41.5%	58.5%	100.0%	
甲賀エリア	回答数(件)	0	6	12	18	1	19
	DI指数	-66.7P	0.0%	33.3%	66.7%	100.0%	
東近江エリア	回答数(件)	0	17	18	35	1	36
	DI指数	-51.4P	0.0%	48.6%	51.4%	100.0%	
湖東エリア	回答数(件)	0	4	10	14	3	17
	DI指数	-71.4P	0.0%	28.6%	71.4%	100.0%	
湖北エリア	回答数(件)	0	6	9	15	3	18
	DI指数	-60.0P	0.0%	40.0%	60.0%	100.0%	
全県	回答数(件)	0	75	119	194	12	206
	DI指数	-61.3P	0.0%	38.7%	61.3%	100.0%	



半年後（平成 22 年 7 月 1 日）の地価動向は、現在（平成 22 年 1 月 1 日）と比較してどうなると予想しますか？

問4: エリア別地価動向(将来)		1	2	3	小計	4	計
調査時点以降半年の取引動向(予測値)		上昇傾向にあるだろう	横ばいだろう	下落傾向にあるだろう		わからない・無回答	
大津エリア	回答数(件)	1	23	28	52	6	58
	DI指数	-51.9P	1.9%	44.2%	53.8%	100.0%	
高島エリア	回答数(件)	0	2	2	4	1	5
	DI指数	-50.0P	0.0%	50.0%	50.0%	100.0%	
湖南エリア	回答数(件)	2	24	24	50	3	53
	DI指数	-44.0P	4.0%	48.0%	48.0%	100.0%	
甲賀エリア	回答数(件)	0	6	11	17	2	19
	DI指数	-64.7P	0.0%	35.3%	64.7%	100.0%	
東近江エリア	回答数(件)	0	18	17	35	1	36
	DI指数	-48.6P	0.0%	51.4%	48.6%	100.0%	
湖東エリア	回答数(件)	0	5	9	14	3	17
	DI指数	-64.3P	0.0%	35.7%	64.3%	100.0%	
湖北エリア	回答数(件)	0	7	7	14	4	18
	DI指数	-50.0P	0.0%	50.0%	50.0%	100.0%	
全県	回答数(件)	3	85	98	186	20	206
	DI指数	-51.1P	1.6%	45.7%	52.7%	100.0%	





地価動向をみると、エリア別の地価動向 DI は、前回（平成 21 年 7 月 1 日時点）と比べ、大津エリア、甲賀エリア、湖東エリアでマイナス幅が拡大しており、いずれのエリアも前回調査でマイナス幅が大きく縮小していたが、今回再び拡大する結果となった。その他の地域については、縮小となっている。最も良かった東近江エリアではマイナス 51.4 であり、最も悪かった湖東エリアではマイナス 71.4 となった。

今後の見通しについては全エリアでマイナス幅が縮小しているものの、「横ばい」との回答も多く見られ、依然として低い水準で推移するとの見方を示す結果となっている。

### 3. 不動産市場(取引・取扱件数)動向の集計

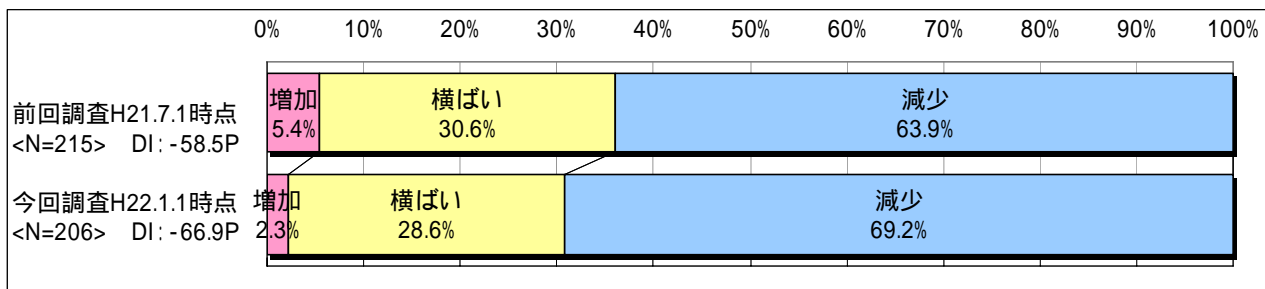
(1) 全県集計(DIの推移を表すグラフはP6に掲載)

平成22年1月1日現在の貴社の取扱件数は、半年前(平成21年7月1日)と比較してどのように感じていますか？

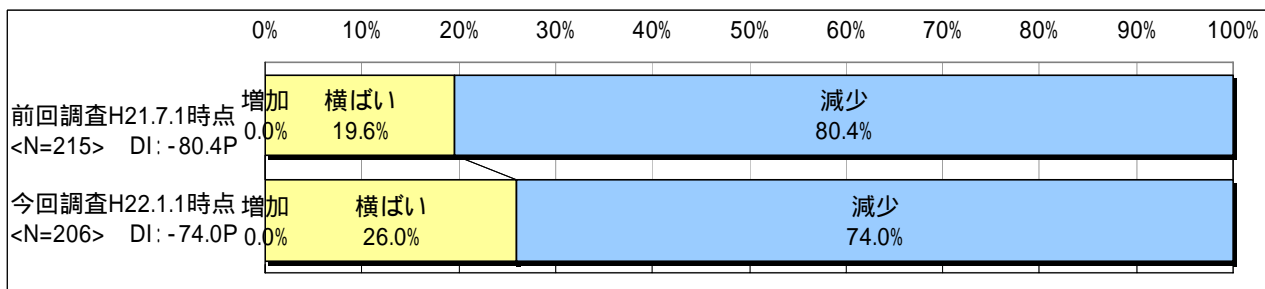
取引動向(過去)		1	2	3	小計	4	計	
調査時点における過去半年の取引動向(実感値)		増加傾向にあった	横ばいであった	減少傾向にあった		わからない・無回答		
イ)	戸建販売	回答数(件)	3 (8)	38 (45)	92 (94)	133 (147)	73 (68)	206 (215)
	DI指数	-66.9P (-58.5P)	2.3% (5.4%)	28.6% (30.6%)	69.2% (63.9%)	100.0% (100.0%)		
ロ)	マンション販売	回答数(件)	0 (0)	13 (11)	37 (45)	50 (56)	156 (159)	206 (215)
	DI指数	-74.0P (-80.4P)	0.0% (0.0%)	26.0% (19.6%)	74.0% (80.4%)	100.0% (100.0%)		
ハ)	仲介件数	回答数(件)	3 (5)	57 (63)	102 (106)	162 (174)	44 (41)	206 (215)
	DI指数	-61.1P (-58.0P)	1.9% (2.9%)	35.2% (36.2%)	63.0% (60.9%)	100.0% (100.0%)		
ニ)	建築件数	回答数(件)	4 (8)	32 (35)	62 (72)	98 (115)	108 (100)	206 (215)
	DI指数	-59.2P (-55.7P)	4.1% (7.0%)	32.7% (30.4%)	63.3% (62.6%)	100.0% (100.0%)		

括弧内の斜体字は前回調査

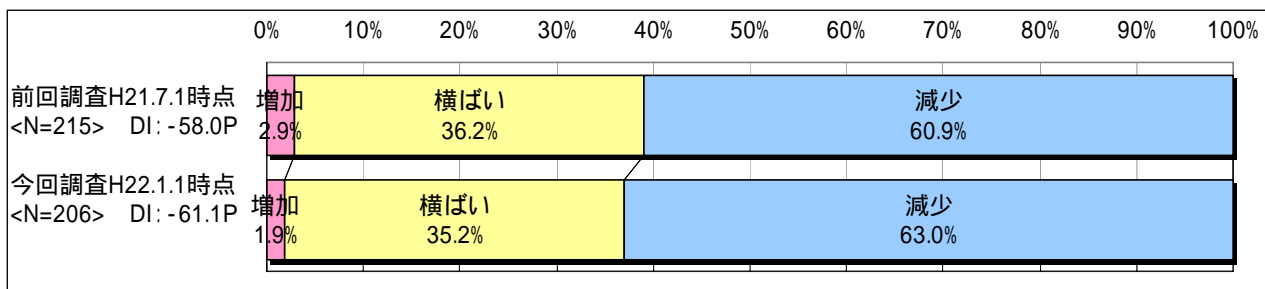
【戸建販売（実感値）】



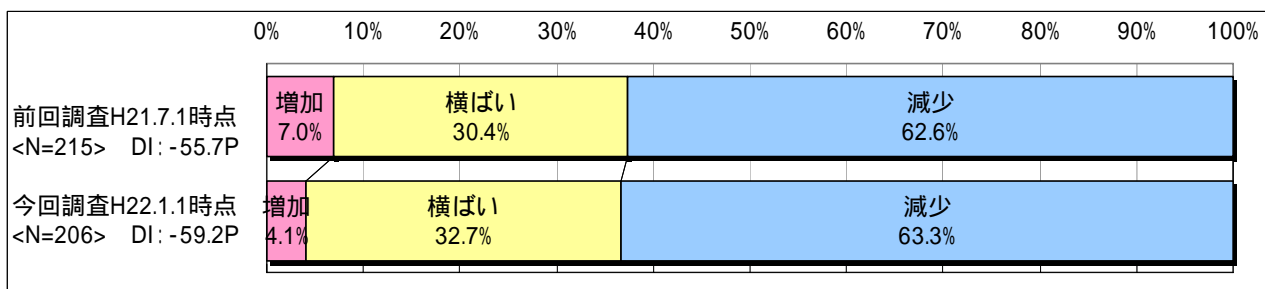
【マンション販売（実感値）】



【仲介件数（実感値）】



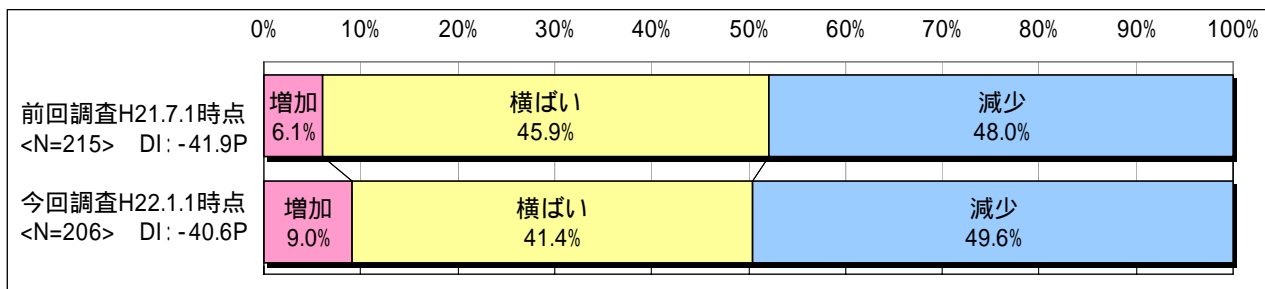
【建築件数（実感値）】



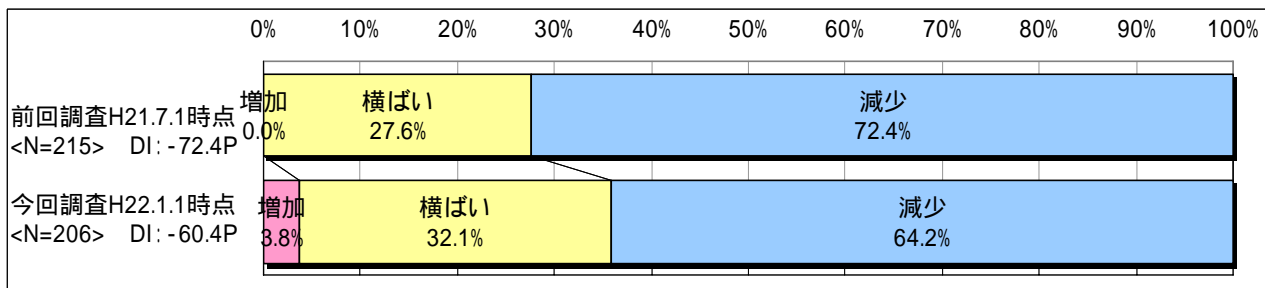
半年後（平成 22 年 7 月 1 日）の貴社の取扱件数は、現在（平成 22 年 1 月 1 日）と比較してどうなると予想しますか？

問6:取引動向(将来)		1	2	3	小計	4	計
調査時点以降半年の取引動向(予測値)		増加傾向にあるだろう	横ばいだろう	減少傾向にあるだろう		わからない・無回答	
イ) 戸建販売	回答数(件)	12 (9)	55 (68)	66 (71)	133 (148)	73 (67)	206 (215)
	DI指数	-40.6P (-41.9P)	9.0% (6.1%)	41.4% (45.9%)	49.6% (48.0%)	100.0% (100.0%)	
ロ) マンション販売	回答数(件)	2 (0)	17 (16)	34 (42)	53 (58)	153 (157)	206 (215)
	DI指数	-60.4P (-72.4P)	3.8% (0.0%)	32.1% (27.6%)	64.2% (72.4%)	100.0% (100.0%)	
ハ) 仲介件数	回答数(件)	9 (14)	71 (82)	82 (77)	162 (173)	44 (42)	206 (215)
	DI指数	-45.1P (-36.4P)	5.6% (8.1%)	43.8% (47.4%)	50.6% (44.5%)	100.0% (100.0%)	
ニ) 建築件数	回答数(件)	11 (9)	44 (45)	45 (57)	100 (111)	106 (104)	206 (215)
	DI指数	-34.0P (-43.2P)	11.0% (8.1%)	44.0% (40.5%)	45.0% (51.4%)	100.0% (100.0%)	

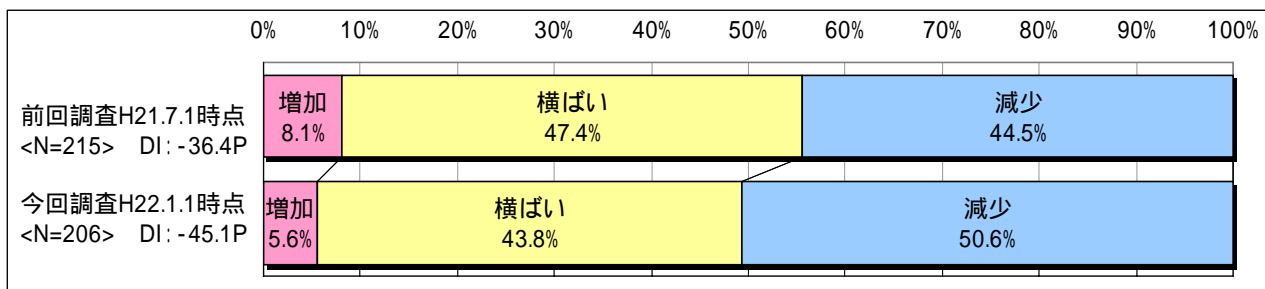
【戸建販売（予測値）】



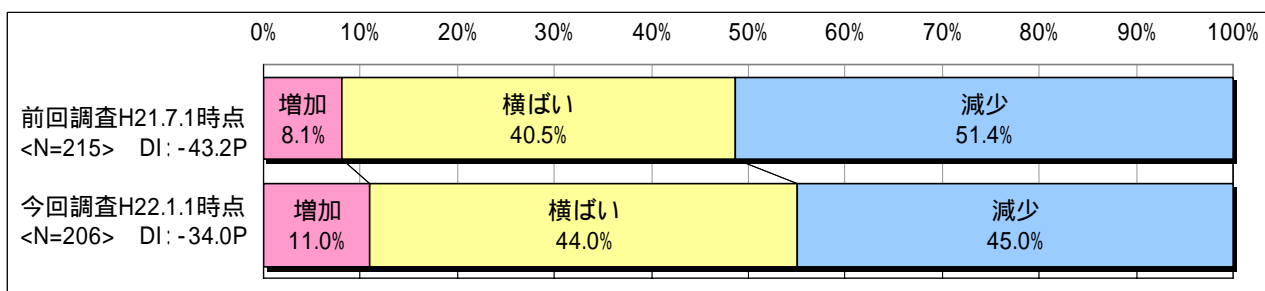
【マンション販売（予測値）】



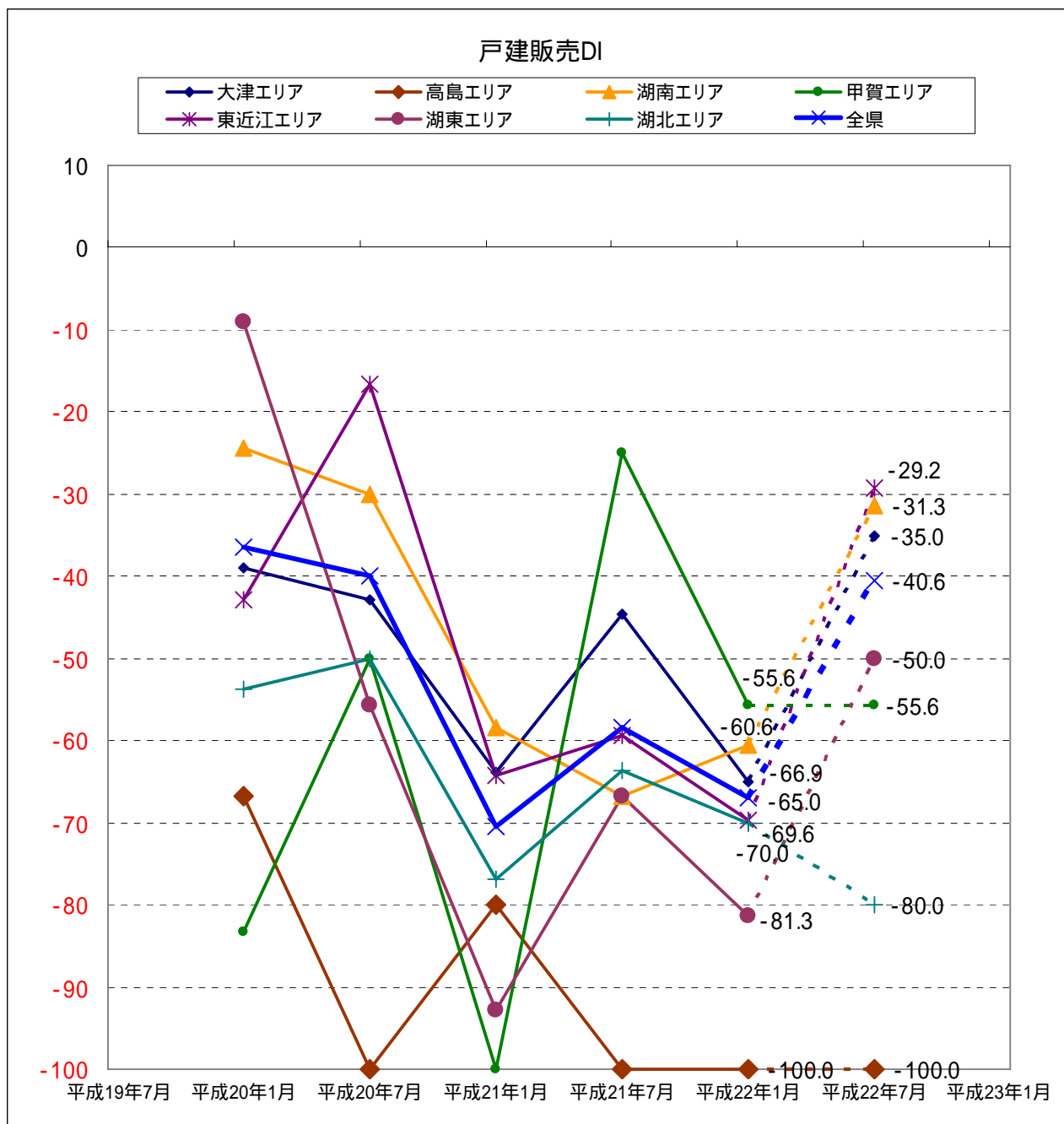
【仲介件数（予測値）】



【建築件数（予測値）】



(2) エリア毎の集計  
戸建販売の動向

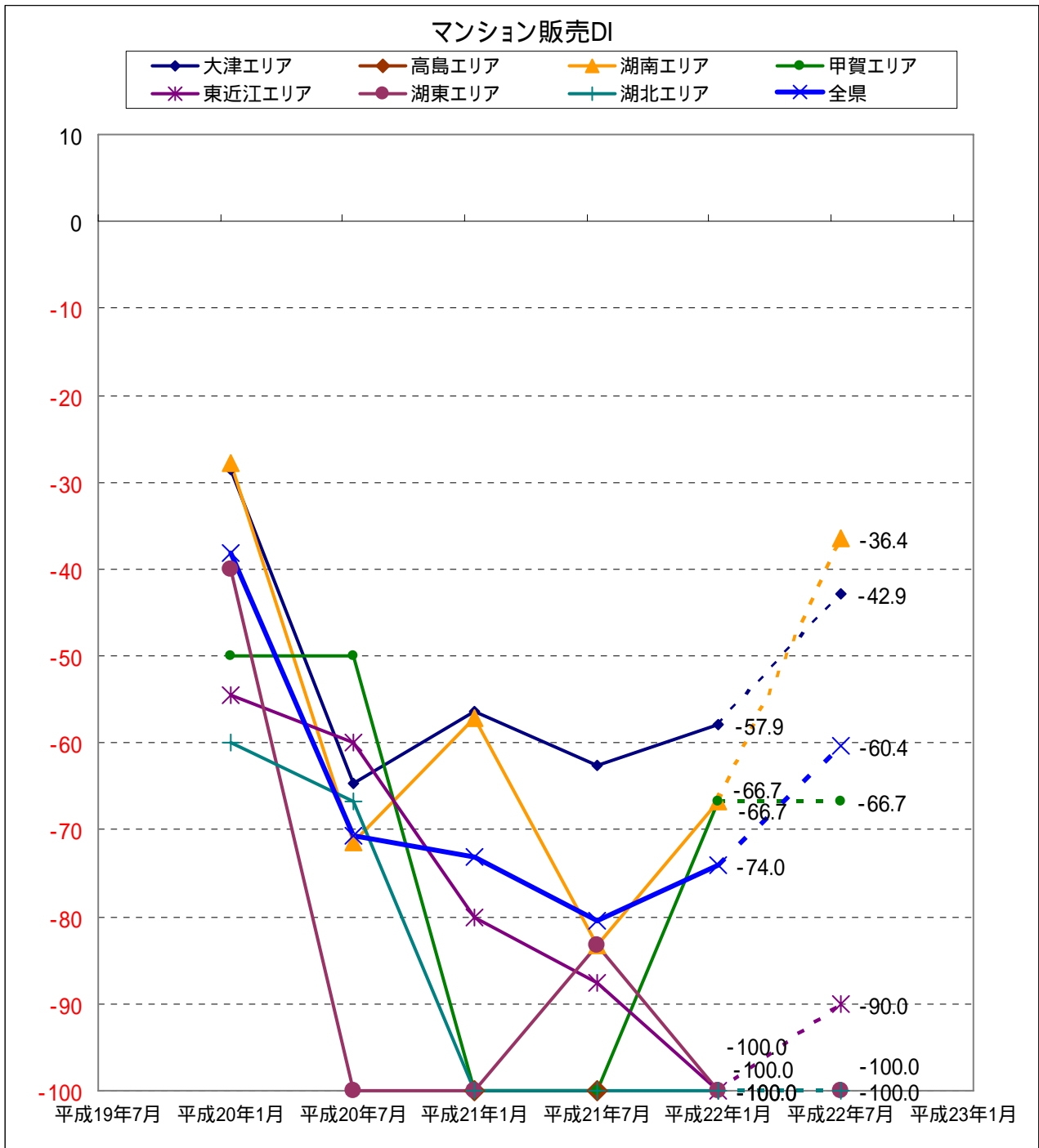


戸建販売の動向を示す戸建販売DIは、高島エリアと湖南エリアを除く、前回マイナス幅が縮小したエリアで今回マイナス幅が拡大している。前回マイナス幅が大幅に縮小した甲賀エリアで再びマイナス幅が拡大した。高島エリアは前回に引き続き、再びマイナス100となった。

今後については、湖北エリアでマイナス幅拡大、甲賀エリアは横ばい、高島エリアはマイナス100の予測となった。その他のエリアは縮小となっている。しかしながら、依然としてマイナス指数であることには変わらず、引き続きは戸建住宅・分譲宅地の動きは厳しい状況であるとの予測である。



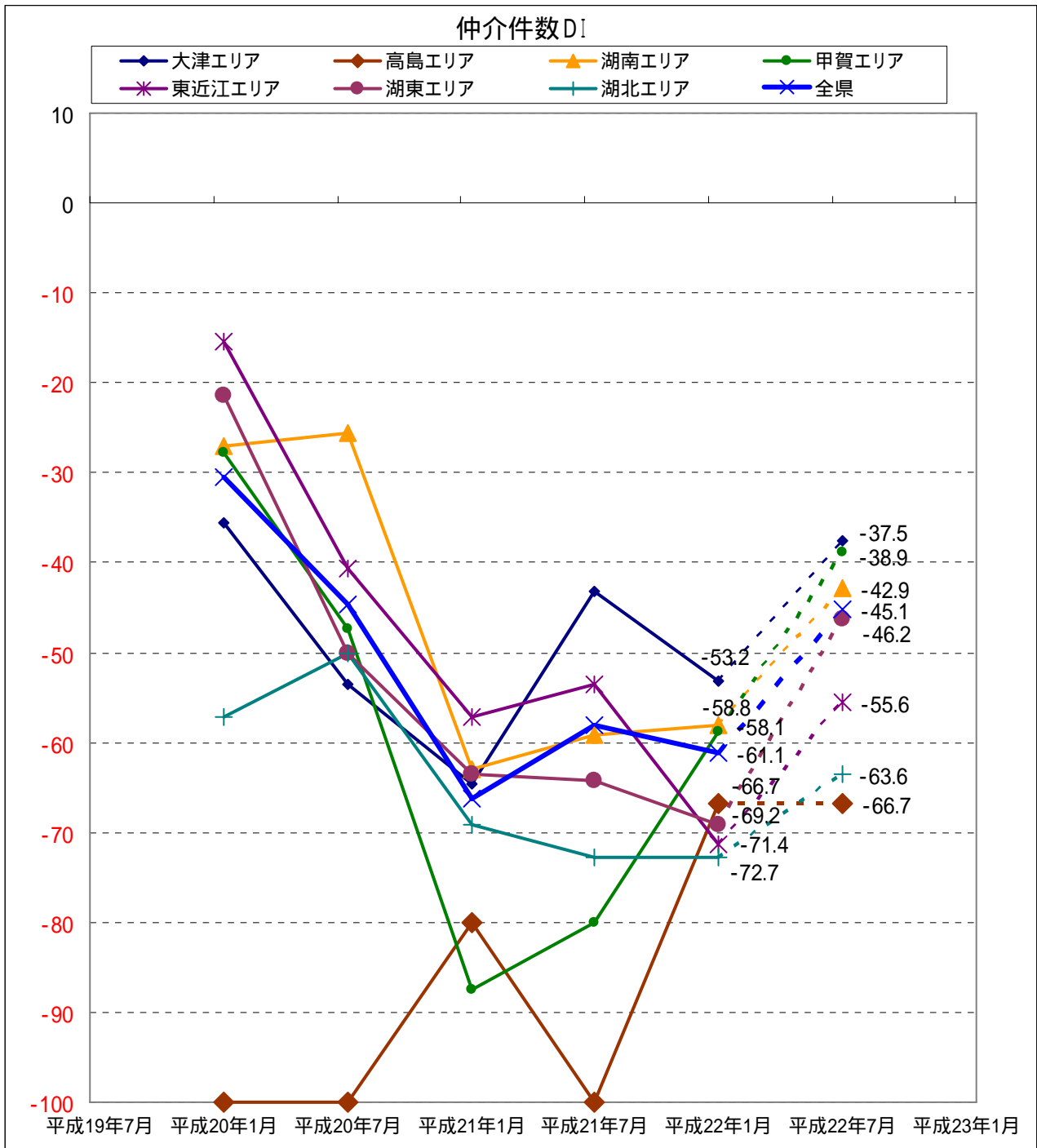
## マンション販売の動向



マンション販売の動向を示すマンション販売DIは、東近江エリア、湖東エリアでマイナス幅拡大となっており、湖東エリア、湖北エリアについてはマイナス100を示す結果となった。他のエリアについてもいずれもマイナス50を下回る低い水準で、引き続き市況の低迷ぶりが反映されている。

今後の予測では湖東エリア、湖北エリアではマイナス100となっており、大津エリア、湖南エリア、東近江エリアでマイナス幅は縮小となっているものの、大津エリア、湖南エリア以外はマイナス50を下回る水準を示しており、マンション市場は依然として低迷するとの予測が強い。

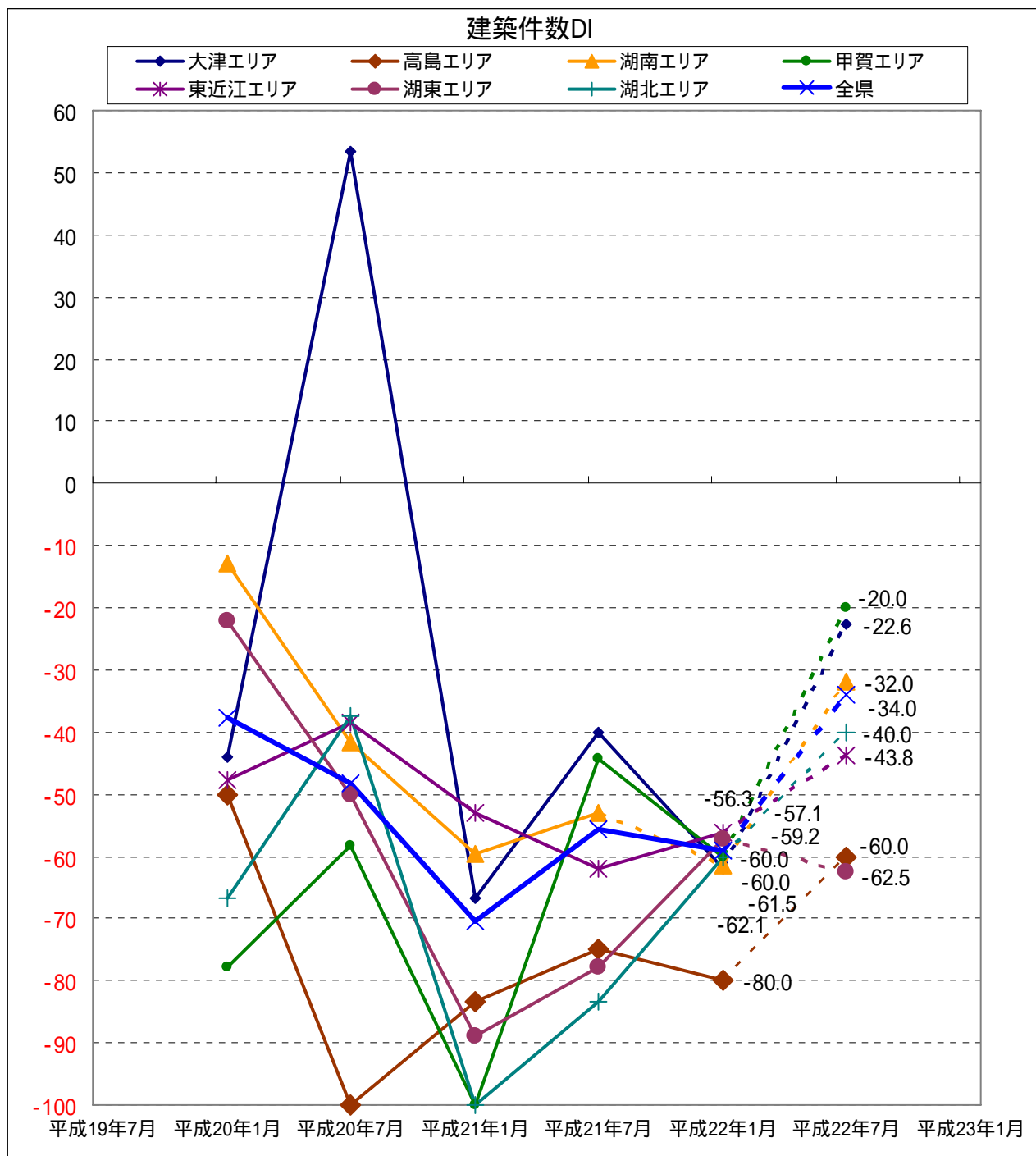
## 仲介件数の動向



仲介件数DIは、甲賀エリアと、高島エリアでマイナス幅が大幅に縮小した。前回は大津、湖南、甲賀、東近江の各エリアでマイナス幅が縮小したが、今回、大津エリア、東近江エリア、湖東エリアについては、再びマイナス幅が拡大する結果を示した。いずれのエリアもマイナス50を下回る結果となった。

今後については、高島エリアを除く全てのエリアでマイナス幅が縮小する予測となっているが、全てのエリアで引き続き低水準の指数を示しており、仲介市況も厳しい状況が続くとの予測である。

## 建築件数の動向



建築の動向を示す建築市況DIは、今回は、東近江エリアを除く全てのエリアでマイナス幅が縮小していたが、今回は、大津エリア、高島エリア、湖南エリア、甲賀エリアで再びマイナス幅拡大を示す結果となった。

今後については、今回マイナス幅の大幅な縮小となった湖東エリアでは再び拡大すると予測されているが、その他のエリアでは縮小となっており、建築市況は依然として厳しい状況が続く中でも、他のDIと比べると、悪化に歯止めがかかるのではないかと期待感が窺える。